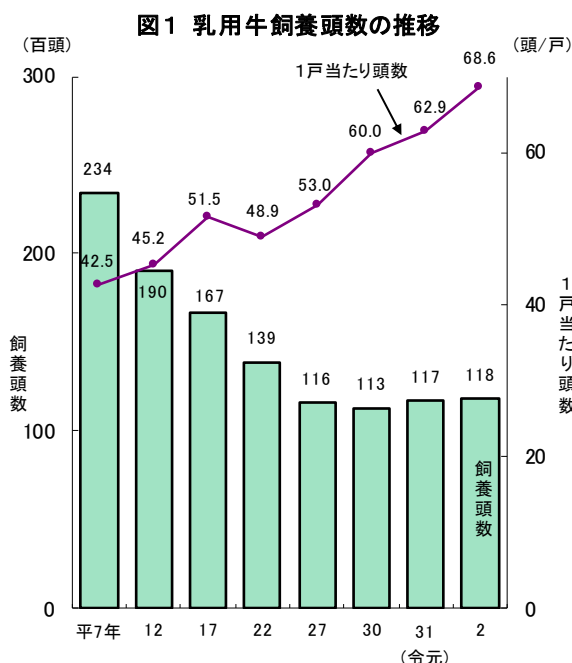


(15) 畜産 (生乳の生産と流通)

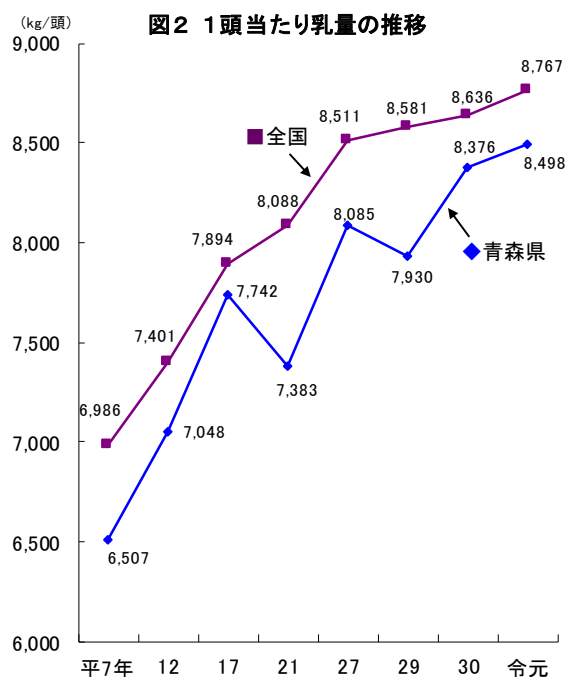
～乳用牛の飼養頭数はわずかに増加～

令和2年の乳用牛の飼養頭数は、1万1,800頭となり、前年よりわずかに増加した。1戸当たりの飼養頭数は68.6頭となり、前年より増加した(図1)。

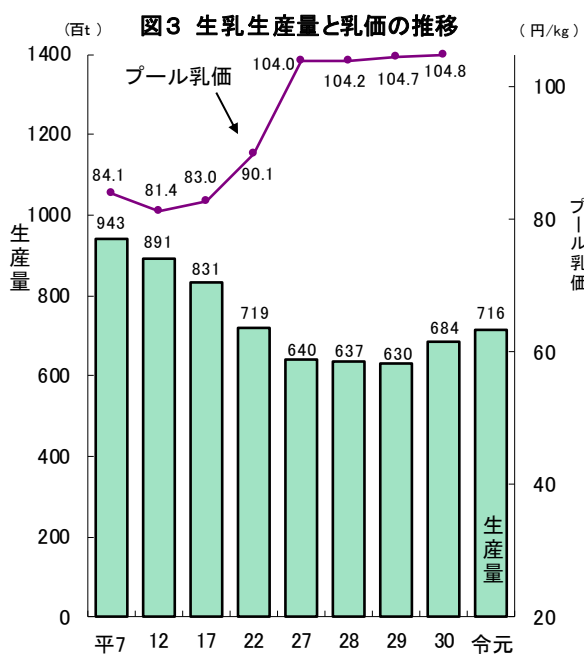
令和元年の1頭当たり乳量は、8,767kgと前年より増加した(図2)。生乳生産量は、7万1,555tと前年より増加した(図3)。全国の生乳生産量は、前年並であった(図4)。



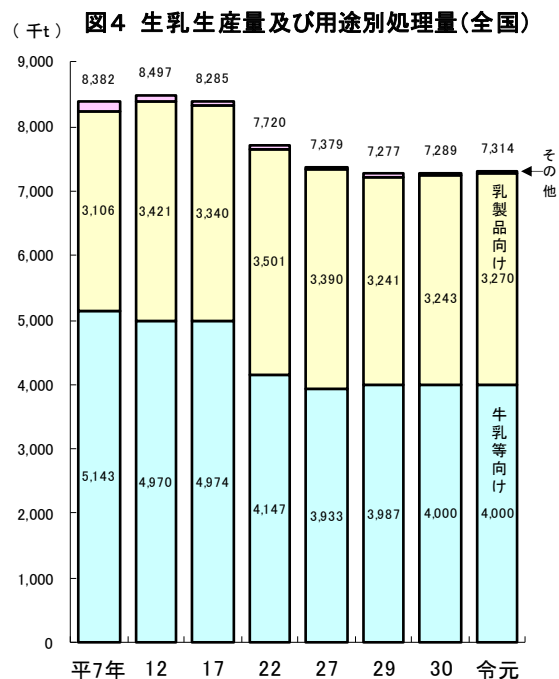
資料：農林水産省畜産統計
注) 各年2月1日現在の数値



資料：農林水産省畜産統計及び牛乳乳製品統計から作成



資料：農林水産省牛乳・乳製品統計、全農青森県本部
注) 14年度以降のプール乳価は運賃を含む



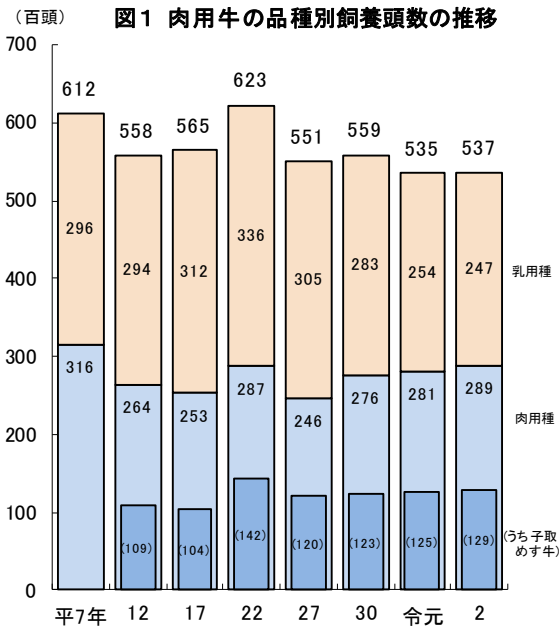
資料：農林水産省牛乳乳製品統計

(16) 畜産 (肉用牛の生産と流通)

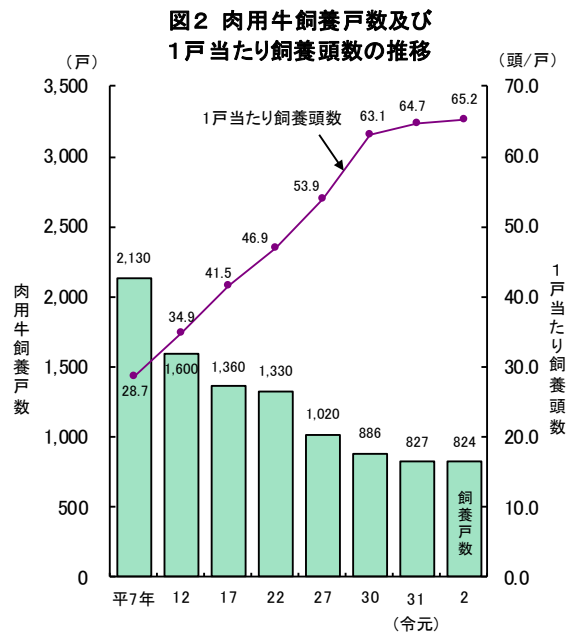
～肉用牛の飼養頭数はほぼ前年並み～

令和2年の肉用牛の飼養頭数は、5万3,700頭と前年並となった。頭数の品種構成は、肉用種が約54%、乳用種が約46%となっている(図1)。また、飼養戸数は、824戸と前年よりわずかに減少し、1戸当たりの飼養頭数は65.2頭となった(図2)。

令和元年の黒毛和種指定肉用子牛取引頭数は5,127頭、平均価格は71万7千円となった(図3)。

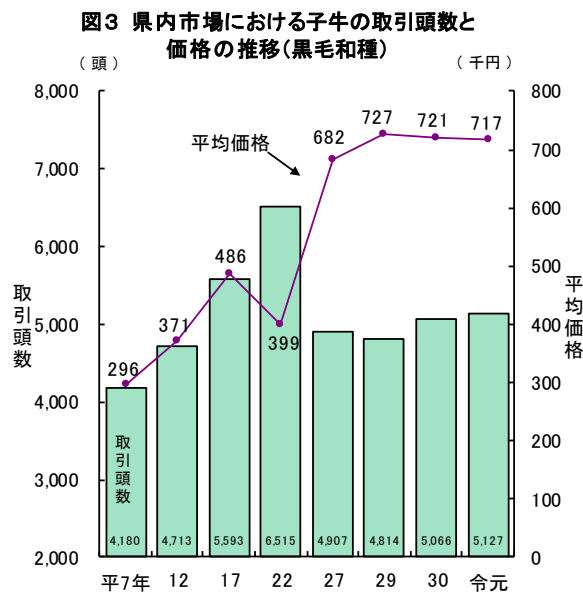


資料：農林水産省畜産統計

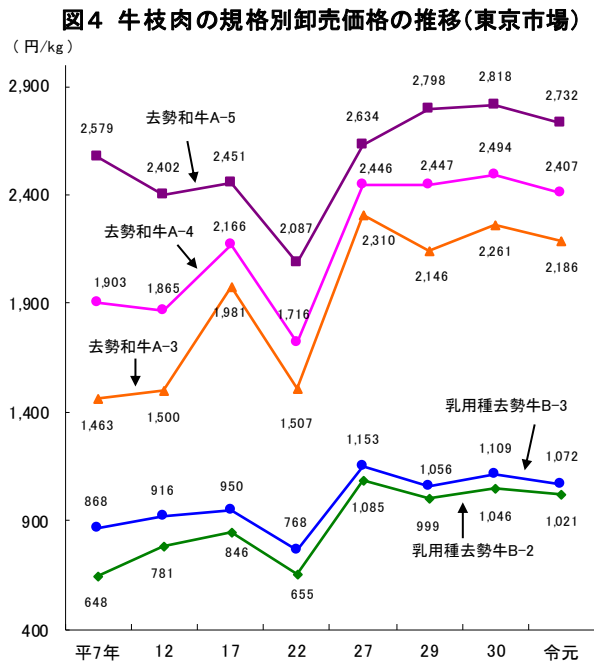


資料：農林水産省畜産統計

注) 各年2月1日現在の数値



注) 平成12年からは指定肉用子牛の集計値
資料：県畜産課、農畜産業振興機構子牛取引情報



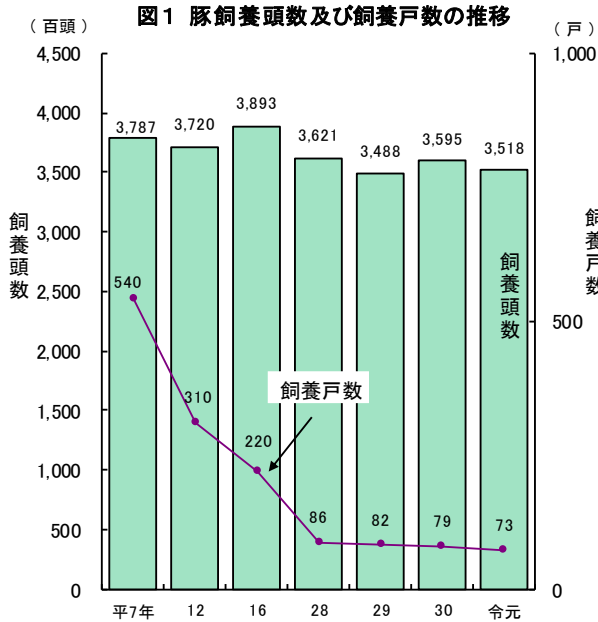
資料：農林水産省食肉流通統計、食肉市況情報

(17) 畜産 (豚の生産と流通)

～豚の飼養規模は全国平均を大幅に上回る～

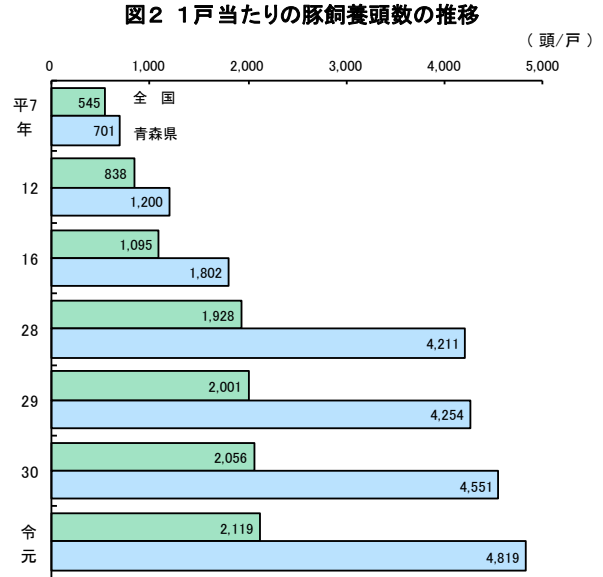
令和元年の豚の飼養戸数は、73戸と前年よりやや減少し、飼養頭数も、35万1,800頭と前年よりやや減少した(図1)。

1戸当たりの飼養頭数は、4,819頭で全国平均(2,119頭)を大幅に上回り、規模拡大が進んでいる(図2)。



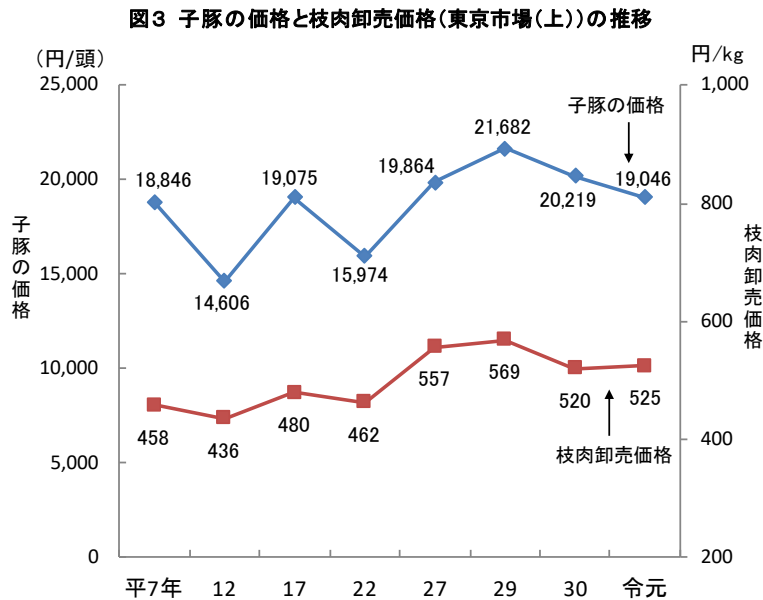
注) 17、22及び27年は農林業センサス実施年のため調査中止

資料: 農林水産省畜産統計



注) 17、22及び27年は農林業センサス実施年のため調査中止

資料: 農林水産省畜産統計



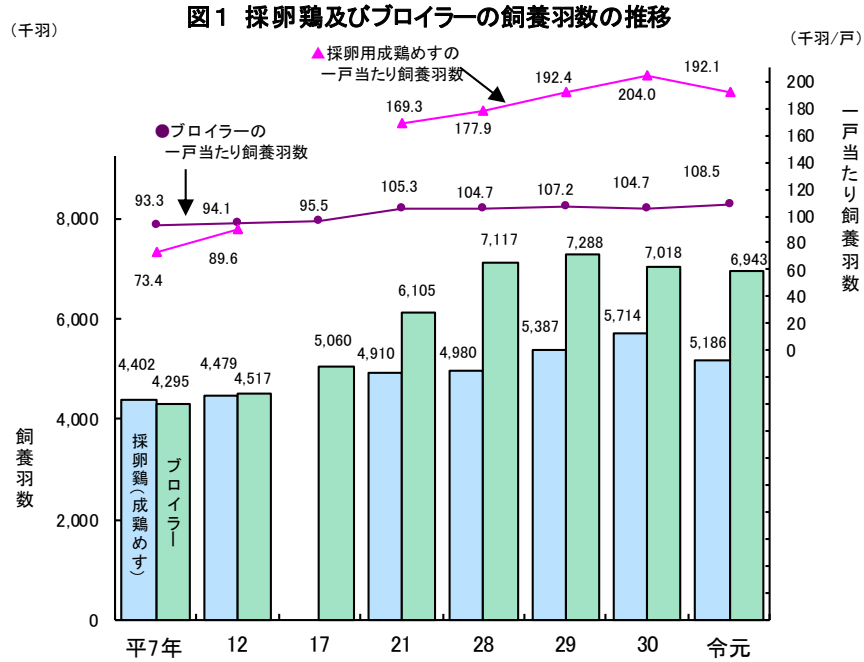
資料: 県畜産課、農林水産省食肉流通統計

(18) 畜産（採卵鶏・ブロイラーの生産と流通）

～採卵鶏・ブロイラーともに飼養羽数が減少～

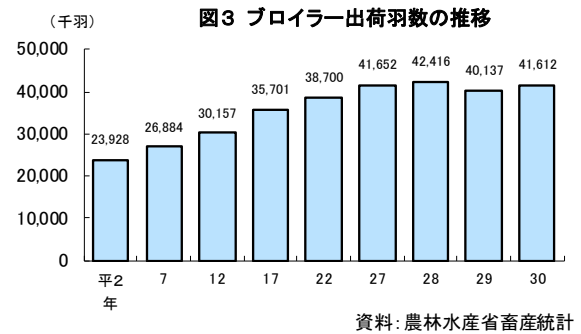
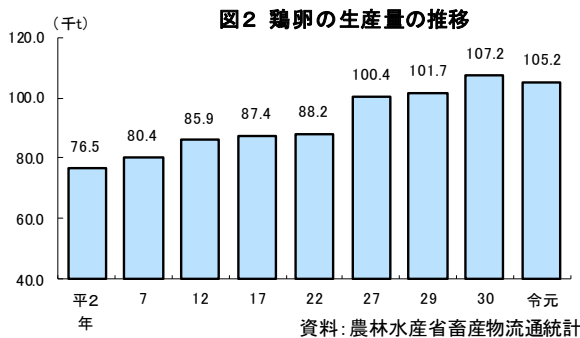
令和元年の採卵鶏（成鶏めす）飼養羽数は、518万6,000羽と前年よりやや減少した。1戸当たりの飼養羽数は、19万2,100羽で全国平均（6万6,900羽）を大幅に上回り全国1位となっている（図1）。

令和元年のブロイラーの飼養羽数は、694万3,000羽と前年よりやや減少した。1戸当たりの飼養羽数は10万8,500羽で全国平均（6万1,400羽）を大幅に上回り、全国5位となっている（図1）。



- 注) 1 採卵用成鶏めすの飼養羽数調査は、平成9年まで300羽以上飼養を対象
 2 平12からは1,000羽以上飼養を対象
 3 平17の採卵鶏は農林業センサス実施年のため調査は中止
 4 平27、令2の採卵鶏、ブロイラーは農林業センサス実施年のため調査は中止

資料：農林水産省畜産統計、食鳥流通統計

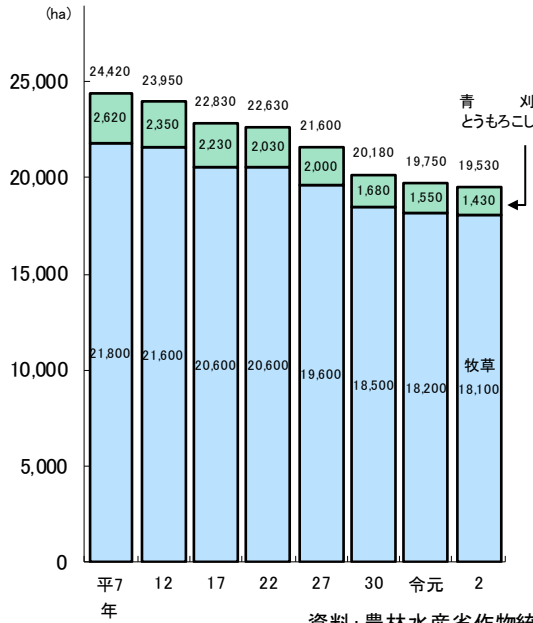


(19) 畜産 (飼料の生産と流通)

～牧草面積はやや減少～

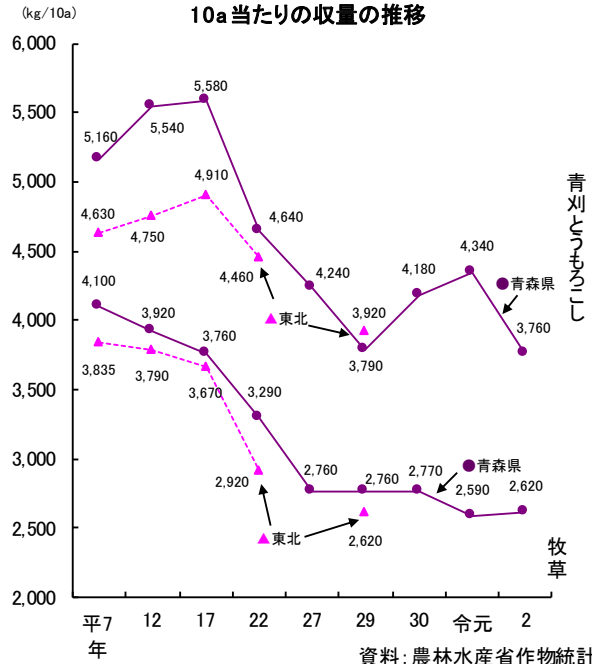
令和2年の牧草の作付面積は1万8,100ha、青刈とうもろこしは1,430haとなった(図1)。また、牧草の収量は、2,620kg/10aと前年からやや増加し、青刈とうもろこしは3,760kg/10aと前年から減少した(図2)。
配合・混合飼料の県内流通量は、103万tと前年からやや減少した(図4)。

図1 牧草及び青刈りとうもろこしの作付面積の推移



資料: 農林水産省作物統計

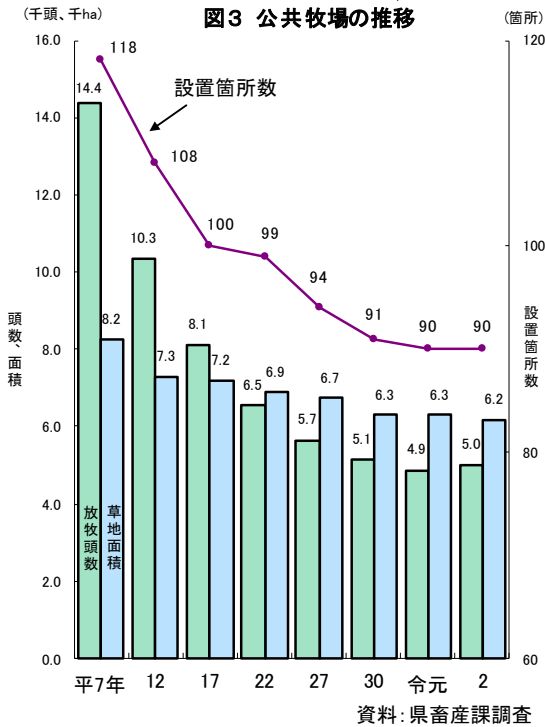
図2 牧草及び青刈りとうもろこしの10a当たりの収量の推移



資料: 農林水産省作物統計

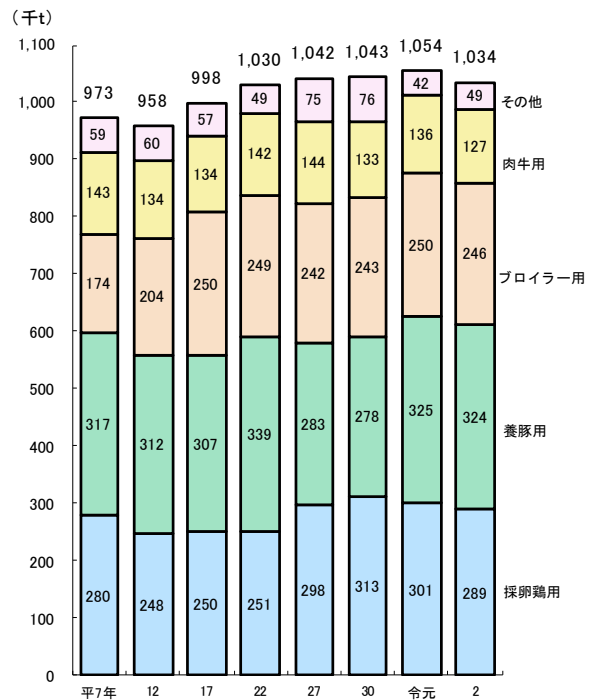
注) H27.30以降は全国調査を行っていないため、東北の数値は未作成

図3 公共牧場の推移



資料: 県畜産課調査

図4 配合飼料の畜種別入荷量とその推移



資料: 飼料月報